

Ⅲ 調査の結果

1 暮らし向き

問1 暮らし向き

お宅の暮らし向きは、今年の今ごろに比べて良くなりましたか。それとも悪くなりましたか。次の中から一つ選んで番号を○で囲んでください。

	(%)
1 かなり良くなった	0.7
2 すこし良くなった	3.9
3 変わらない	58.8
4 すこし悪くなった	25.9
5 かなり悪くなった	9.6
6 わからない	1.1

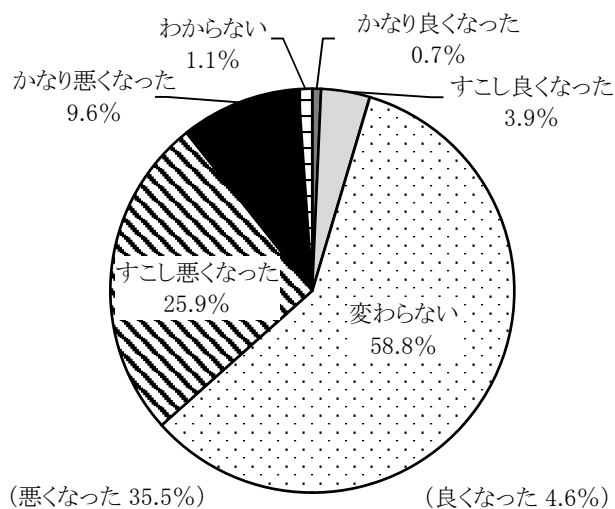
それは主にどういう理由によるものですか。次の中から一つ選んで番号を○で囲んでください。

《暮らし向きが悪くなった理由》

	(回答者 = 419人)	(%)
1 日常の生活費が増えた		30.8
2 収入が減った(働き手が減った)		40.3
3 営業不振、営業経費が増えた		7.2
4 教育費が増えた		3.3
5 特別事情による(結婚、出産、病気、災害など)		10.7
6 その他		7.2
7 わからない		0.5

暮らし向きが昨年に比べて「良くなった」と思うか、それとも「悪くなった」と思うかを聞いたところ、「悪くなった」と答えた人の割合が、35.5%（「すこし悪くなった」：25.9%、「かなり悪くなった」：9.6%）、「変わらない」が、58.8%となっている。

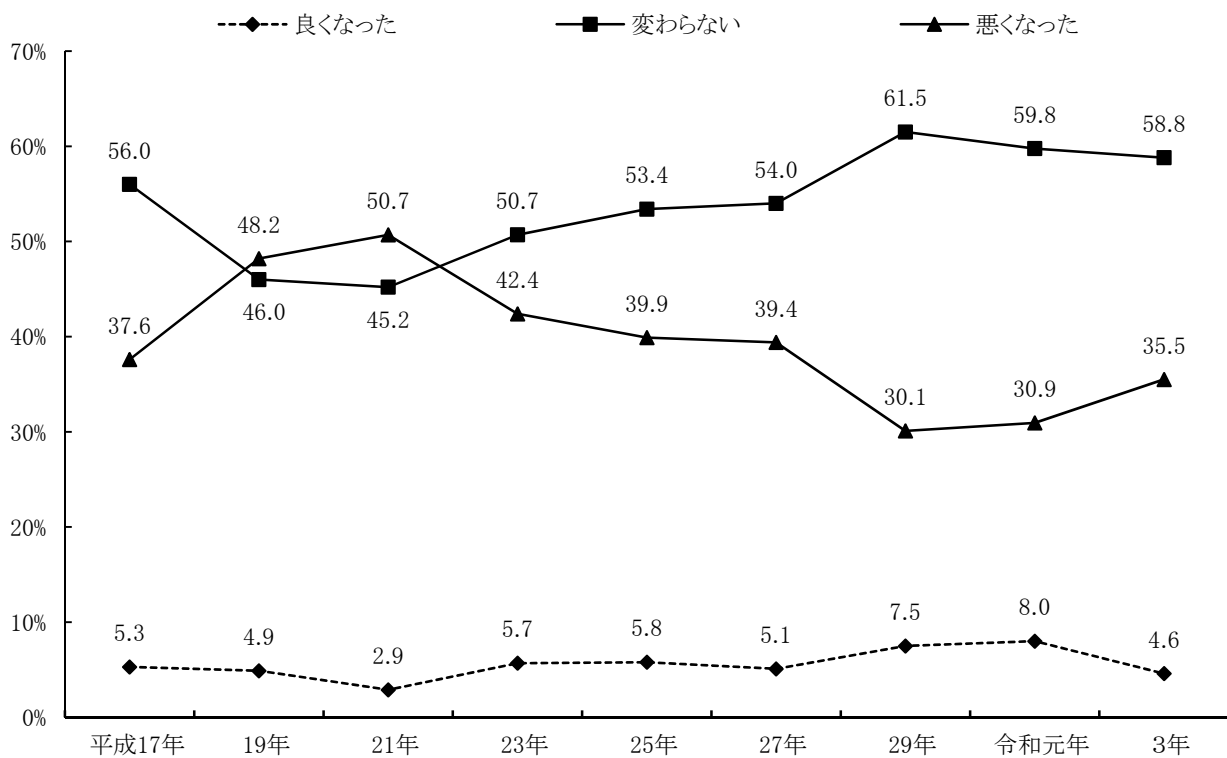
また、「良くなった」と答えた人の割合は、4.6%（「かなり良くなった」：0.7%、「すこし良くなった」：3.9%）となっている。



【経年変化】

経年変化をみると、「悪くなった」と答えた人の割合が、平成 29 年調査から増加に転じており、令和元年調査（以下「前回調査」という。）と比較して 4.6 ポイント増加している。

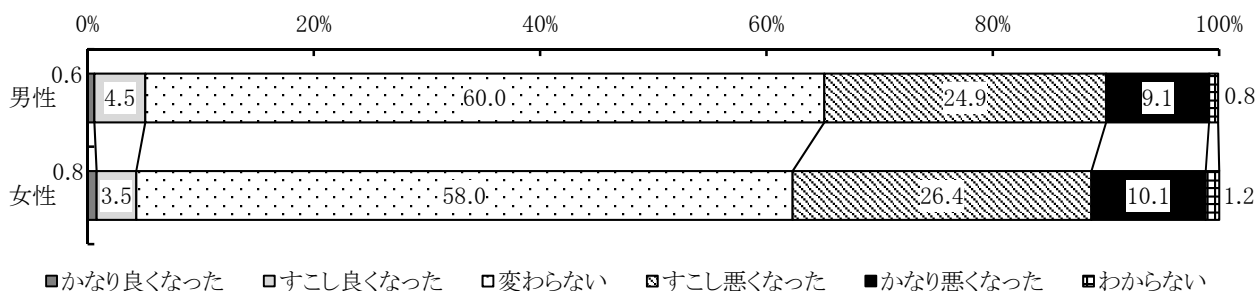
また、「変わらない」及び「良くなった」と答えた人の割合は、前回調査と比較して、「変わらない」が 1.0 ポイント減少し、「良くなった」が 3.4 ポイント減少している。



【性別】

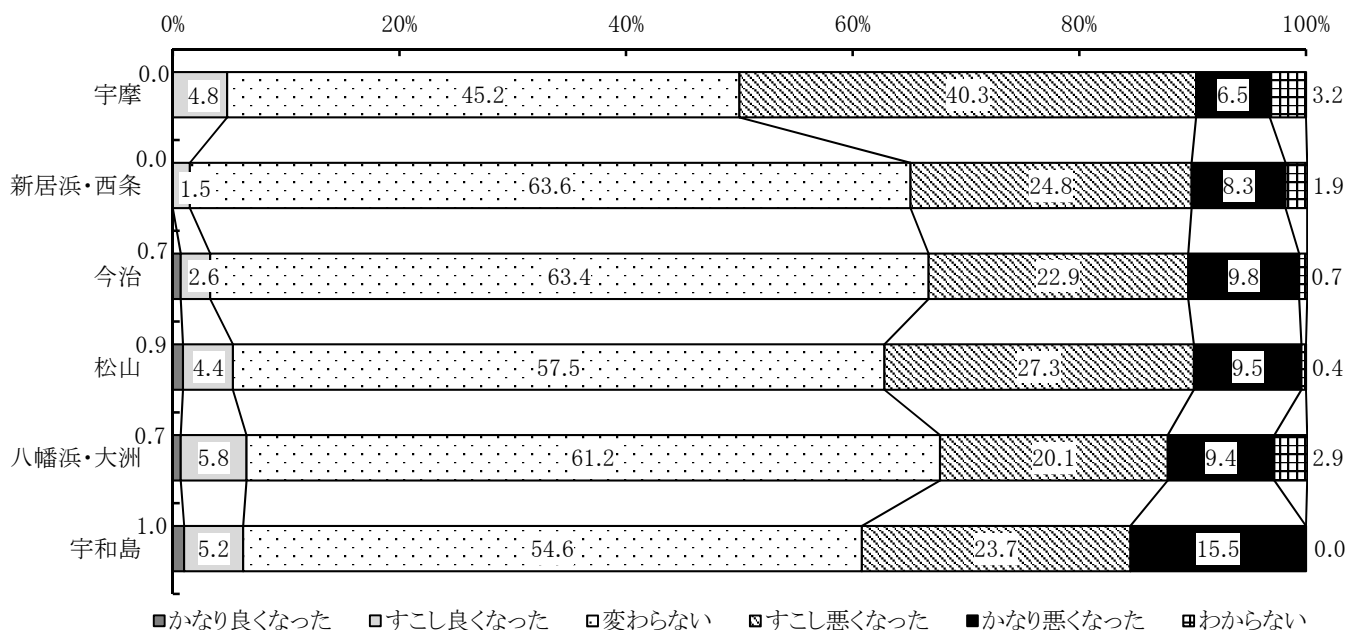
性別にみると、「良くなった」及び「変わらない」と答えた人の割合の合計は、男女共に 6 割を超えている。（男性 65.1%、女性 62.3%）

一方、「悪くなった」と答えた人の割合は、女性（36.5%）の方が男性（34.0%）より多く、「良くなった」は、男性（5.1%）の方が女性（4.3%）よりも多くなっている。



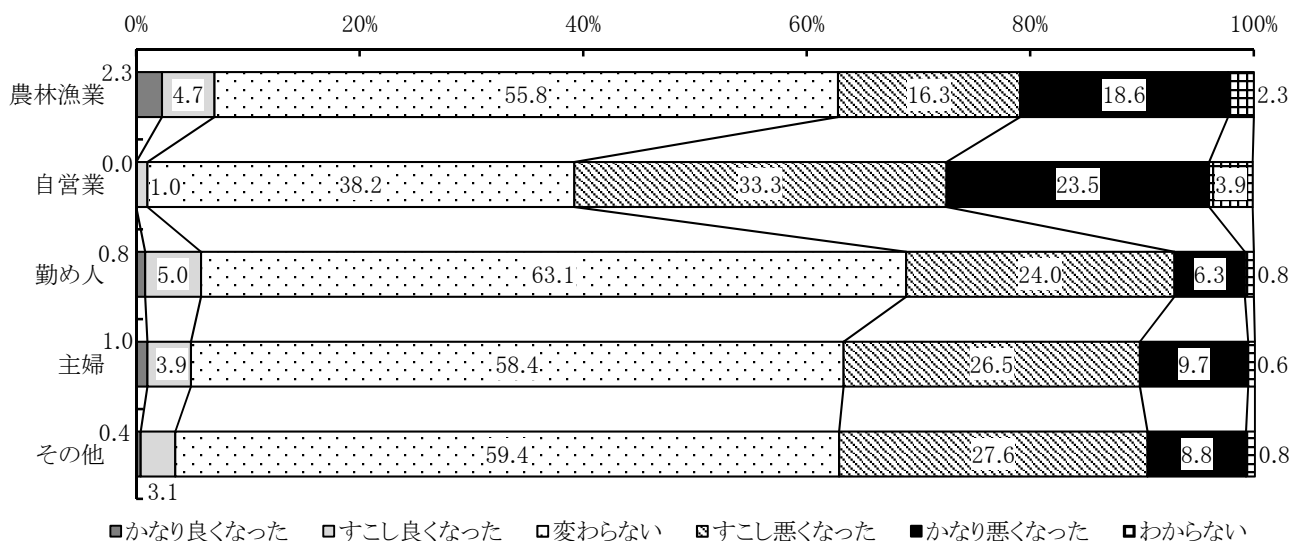
【生活圏域別】

生活圏域別にみると、全ての圏域で、「変わらない」と答えた人の割合が最も多く、最も多いのが新居浜・西条圏域（63.6%）となっている。
 また、宇摩圏域では、「悪くなった」と答えた人の割合が46.8%で、前回調査より16.7ポイント増加している。



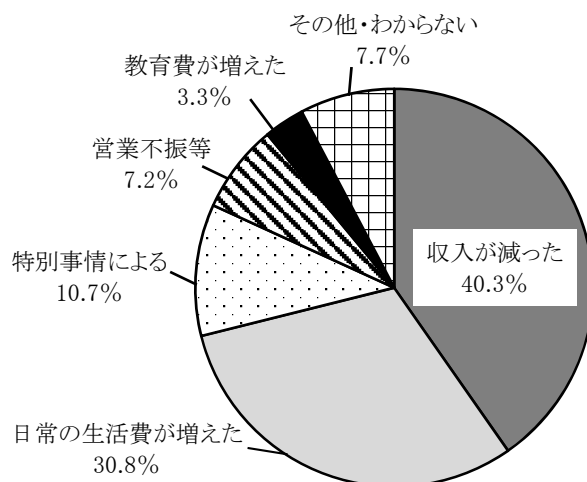
【職業別】

職業別にみると、全ての職種で、「変わらない」と答えた人の割合が最も多く、勤め人で（63.1%）と最も多くなっている。
 また、「良くなった」と答えた人の割合が、農林漁業（7.0%）で最も多く、前回調査より7.6ポイント減少し、「悪くなった」と答えた人の割合が、自営業（56.8%）で最も多く、前回調査より19.6ポイント増加している。



《暮らし向きが悪くなった理由》

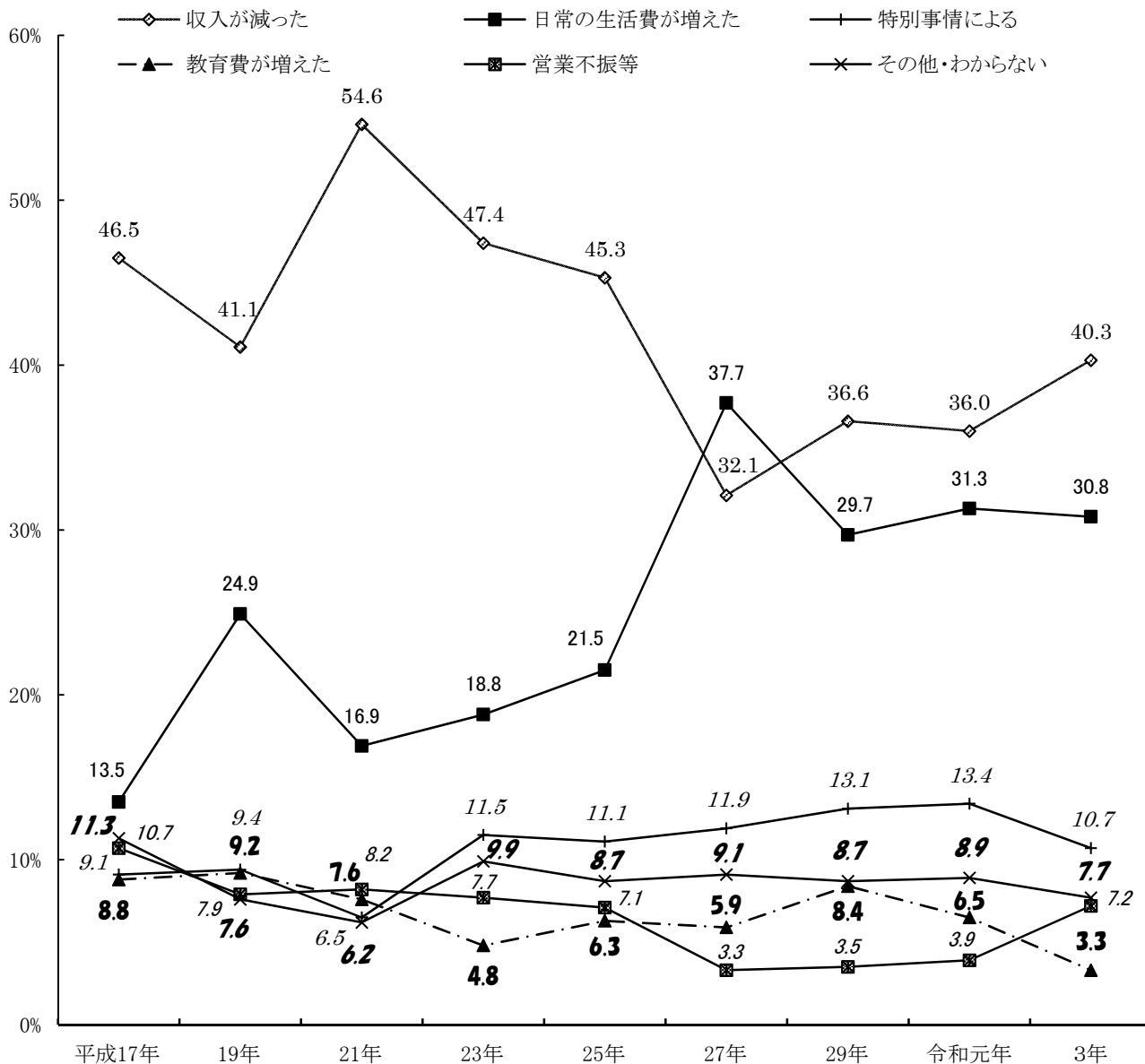
暮らし向きが「悪くなった」と答えた人に、その主な理由を聞いたところ、「収入が減った（働き手が減った）」と答えた人の割合が40.3%と最も多く、以下「日常の生活費が増えた」（30.8%）、「特別事情による（結婚、出産、病気、災害など）」（10.7%）、「その他・わからない」（7.7%）、「営業不振等」（7.2%）、「教育費が増えた」（3.3%）の順となっている。



【経年変化】

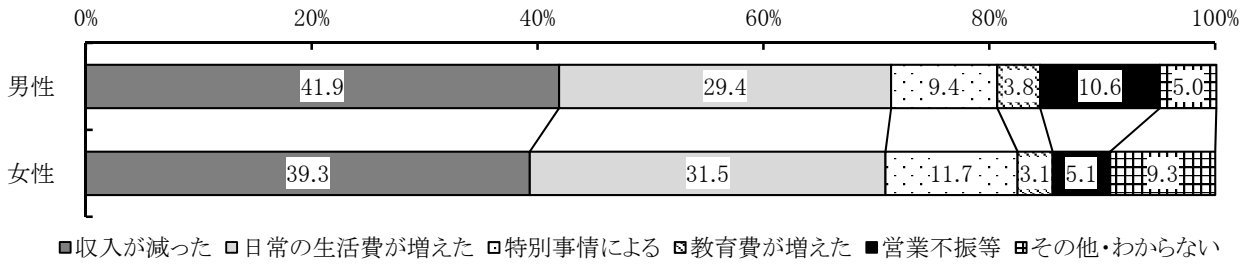
前回調査と比較すると、暮らし向きが悪くなった理由のうち「収入が減った（働き手が減った）」が4.3ポイント、「営業不振、営業経費が増えた」が3.3ポイント増加している。

一方、「教育費が増えた」は、前回調査と比較して、3.2ポイント減少している。



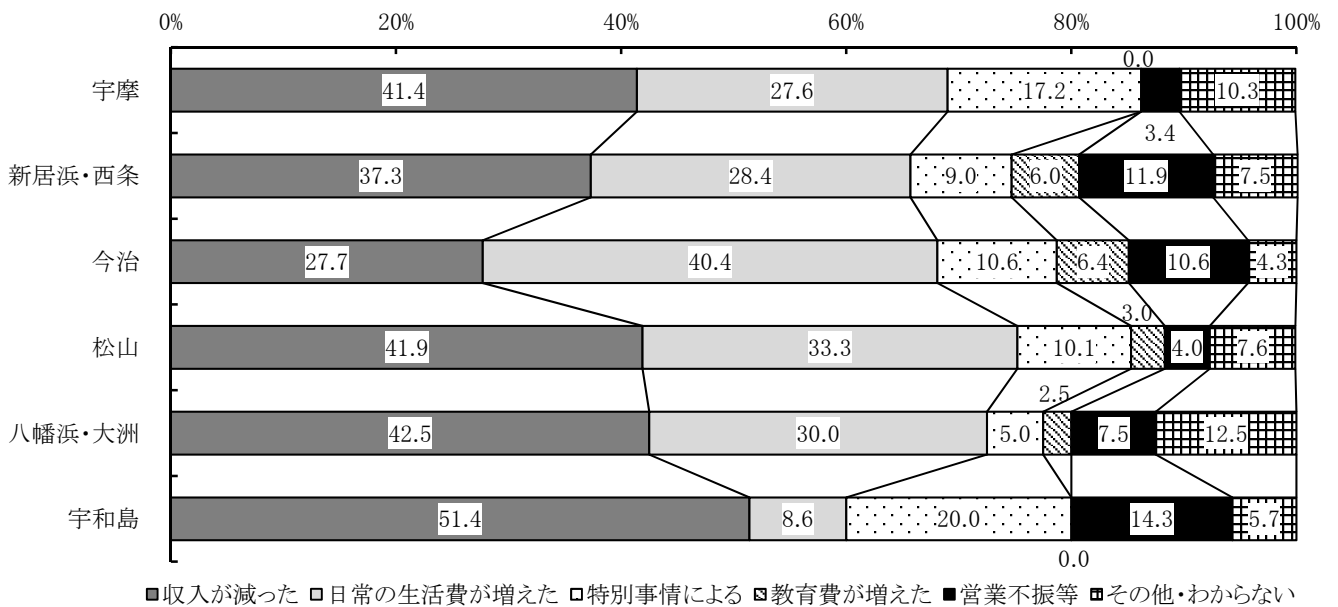
【性別】

性別にみると、男女共に「収入が減った」と答えた人の割合が最も多くなっている。（男性 41.9%、女性 39.3%）（前回調査と比較すると、男性で 2.4 ポイント増加、女性で 6.1 ポイント増加）男性の方が女性よりも 2.6 ポイント多くなっている。



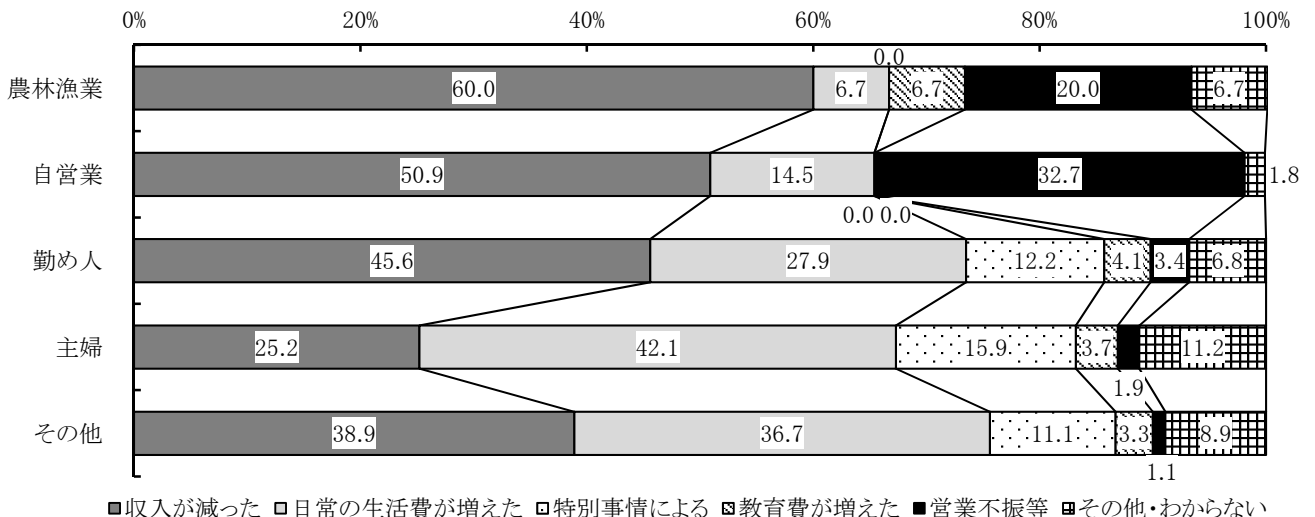
【生活圏域別】

生活圏域別にみると、今治圏域を除く全ての圏域で「収入が減った」と答えた人の割合が最も多く、今治圏域では、「日常の生活費が増えた」が最も多くなっている。前回調査と比較すると、「特別事情による」は今治圏域で 19.1 ポイント減少し、「収入が減った」は宇和島圏域で 15.7 ポイント増加している。また、「営業不振など」と答えた人の割合は、宇和島圏域（14.3%）で最も多くなっている。



【職業別】

職業別にみると、主婦を除く全ての職種で、「収入が減った」と答えた人の割合が最も多く、主婦では、「日常の生活費が増えた」が最も多くなっている。また、前回調査と比較すると、自営業では「収入が減った」が 20.1 ポイント増加し、農林漁業では「日常の生活費が増えた」が 29.0 ポイント減少している。



問2 暮らし向きの変化

お宅の暮らしの中で、次の各項目は、昨年の今ごろに比べ良くなりましたか。それとも悪くなりましたか。項目ごとにそれぞれ該当するものを一つずつ選んで番号を○で囲んでください。

(%)

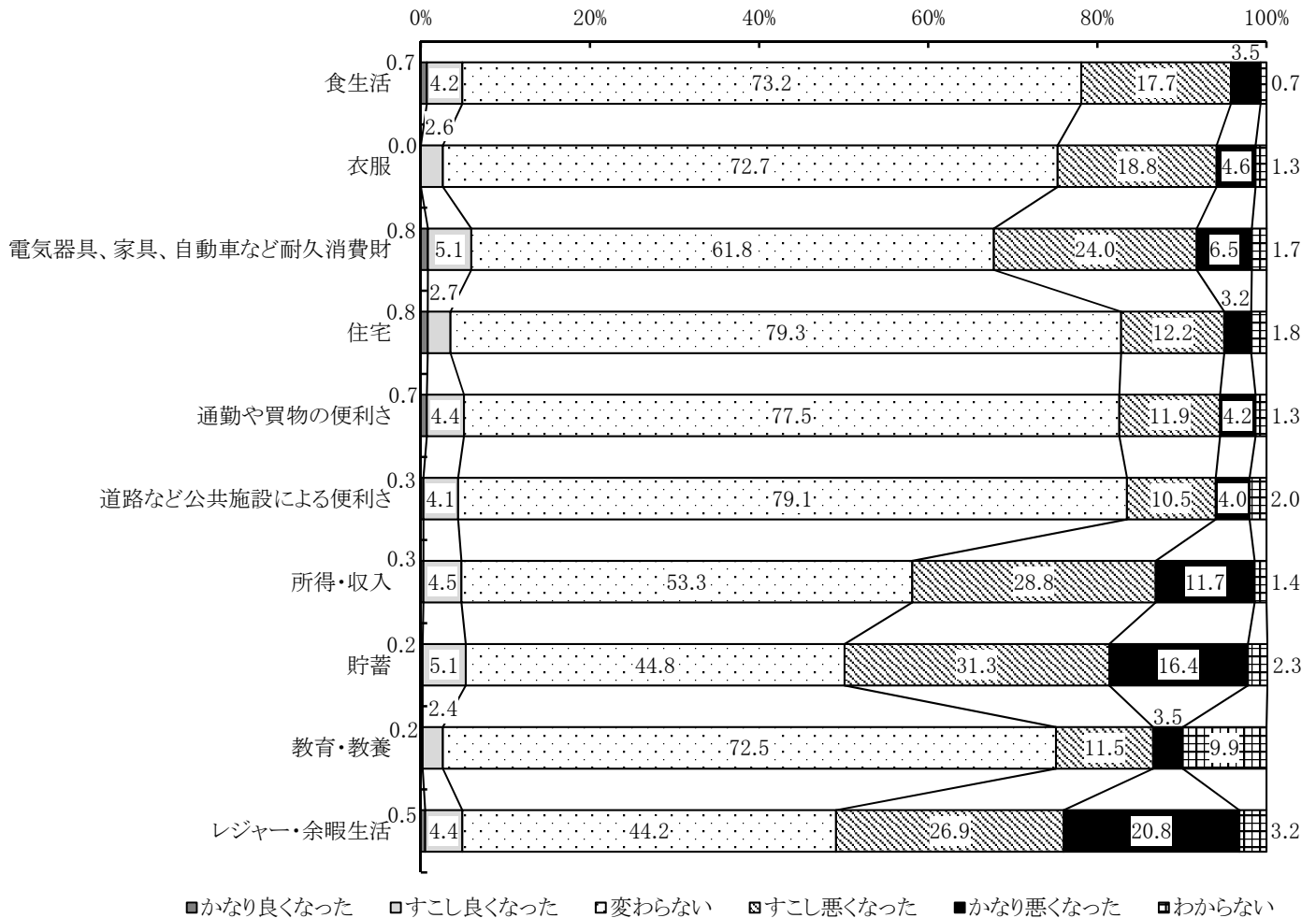
項 目	かなり良くなった	すこし良くなった	変わらない	すこし悪くなった	かなり悪くなった	わからない
1 食生活	0.7	4.2	73.2	17.7	3.5	0.7
2 衣服	0.0	2.6	72.7	18.8	4.6	1.3
3 電気器具、家具、自動車など耐久消費財	0.8	5.1	61.8	24.0	6.5	1.7
4 住宅	0.8	2.7	79.3	12.2	3.2	1.8
5 通勤や買物の便利さ	0.7	4.4	77.5	11.9	4.2	1.3
6 道路など公共施設による便利さ	0.3	4.1	79.1	10.5	4.0	2.0
7 所得・収入	0.3	4.5	53.3	28.8	11.7	1.4
8 貯蓄	0.2	5.1	44.8	31.3	16.4	2.3
9 教育・教養	0.2	2.4	72.5	11.5	3.5	9.9
10 レジャー・余暇生活	0.5	4.4	44.2	26.9	20.8	3.2

(%)

(参考)	良くなった	変わらない	悪くなった
1 食生活	4.9	73.2	21.2
2 衣服	2.6	72.7	23.4
3 電気器具、家具、自動車など耐久消費財	5.9	61.8	30.5
4 住宅	3.5	79.3	15.4
5 通勤や買物の便利さ	5.1	77.5	16.1
6 道路など公共施設による便利さ	4.4	79.1	14.5
7 所得・収入	4.8	53.3	40.5
8 貯蓄	5.3	44.8	47.7
9 教育・教養	2.6	72.5	15.0
10 レジャー・余暇生活	4.9	44.2	47.7

暮らしの各面から10項目を取り上げ、昨年と比べて「良くなった」（「かなり良くなった」及び「すこし良くなった」）と思うか、それとも「悪くなった」（「すこし悪くなった」及び「かなり悪くなった」）と思うかをそれぞれ聞いたところ、「貯蓄」及び「レジャー・余暇生活」の項目で「悪くなった」と答えた人の割合が最も多くなっている。（「貯蓄」：47.7%、「レジャー・余暇生活」：47.7%）

また、「良くなった」と答えた人の割合が比較的多い項目としては、「電気器具、家具、自動車など耐久消費財」（5.9%）が挙げられるが、全ての項目で「悪くなった」を下回っている。

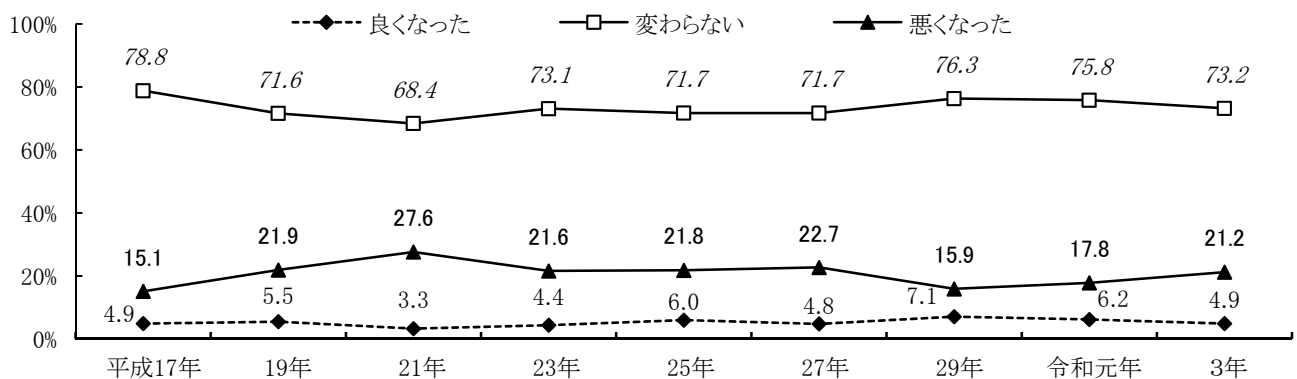


【経年変化】

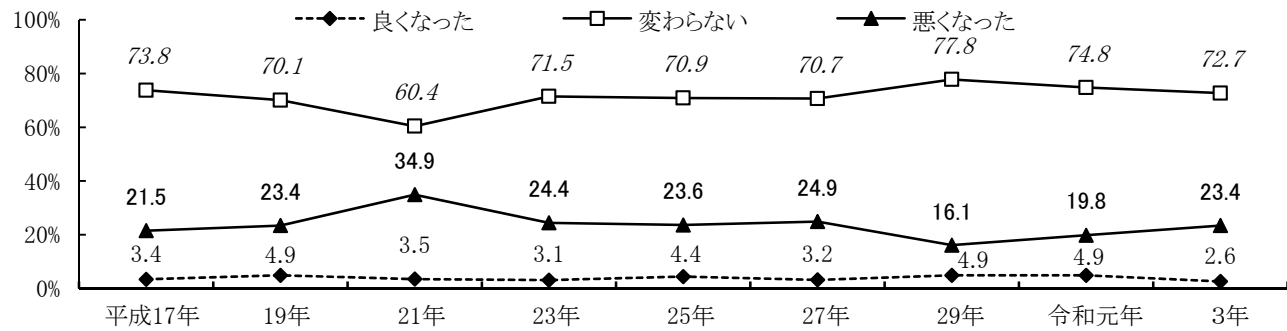
前回調査と比較すると、全ての項目で「良くなった」と答えた人の割合は、減少している。

また、「悪くなった」と答えた人の割合は、「住宅」を除く全ての項目において増加しているが、特に「レジャー・余暇生活」は、17.3ポイントと大きく増加している。

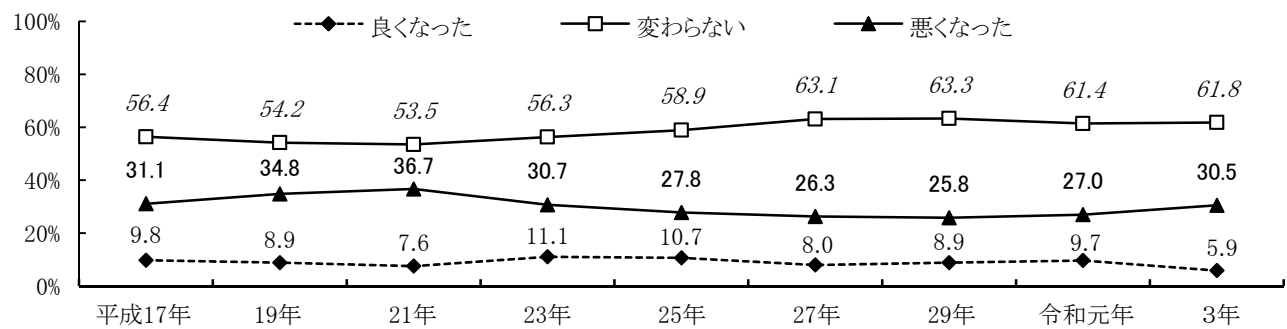
食生活



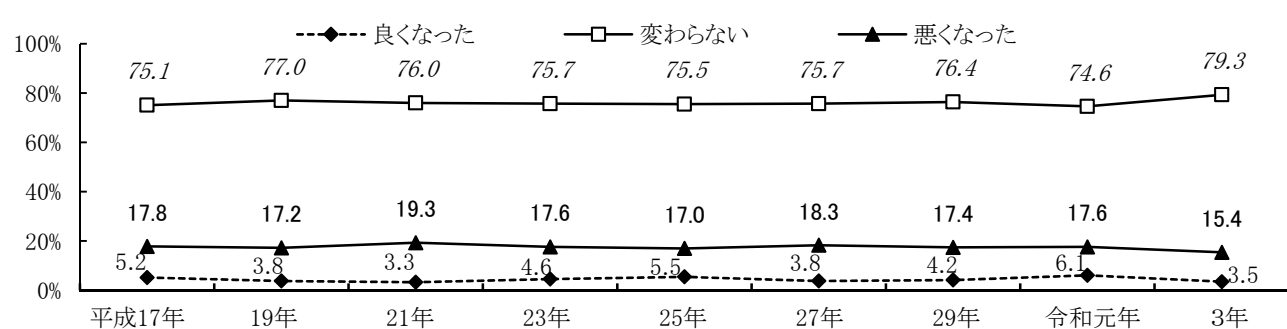
衣類



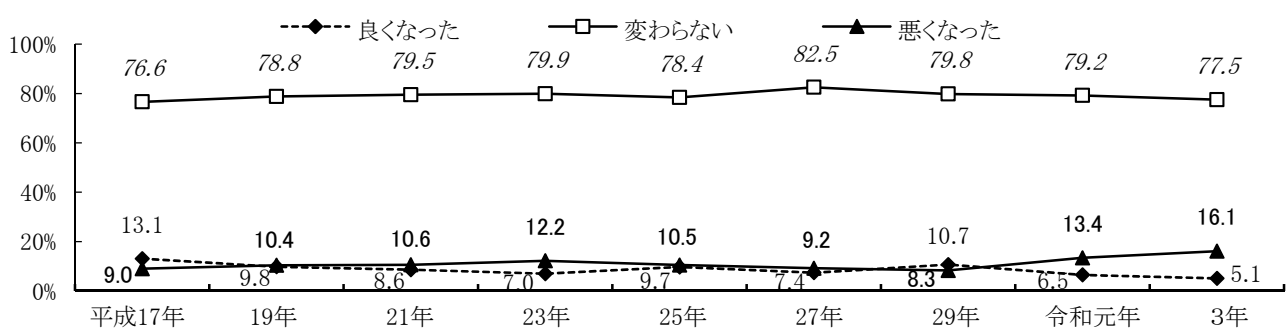
電気器具など耐久消費財



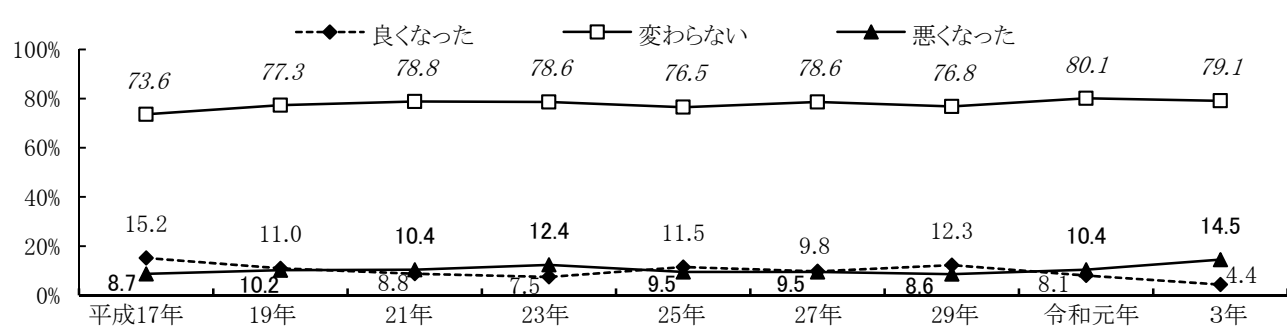
住宅



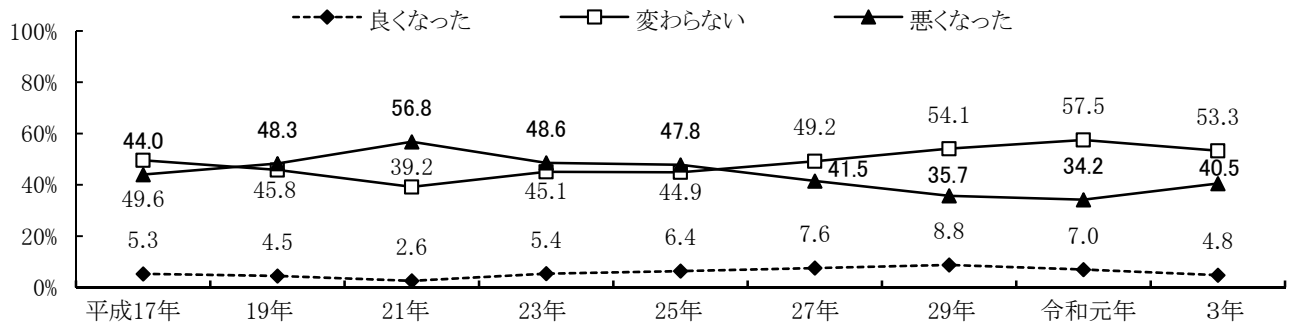
通勤や買物の便利さ



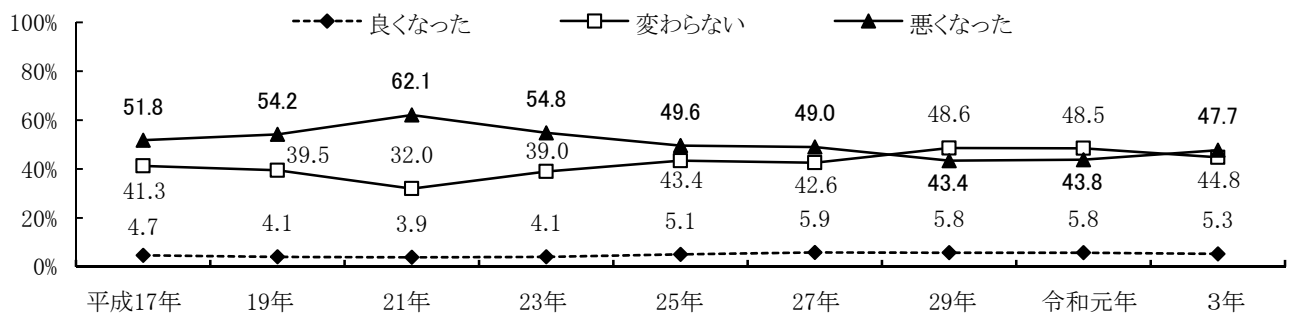
道路など公共施設による便利さ



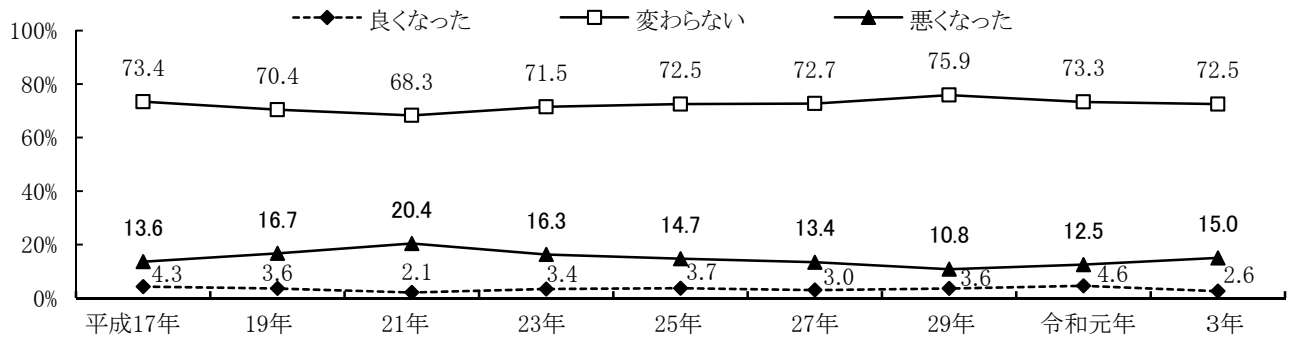
所得・収入



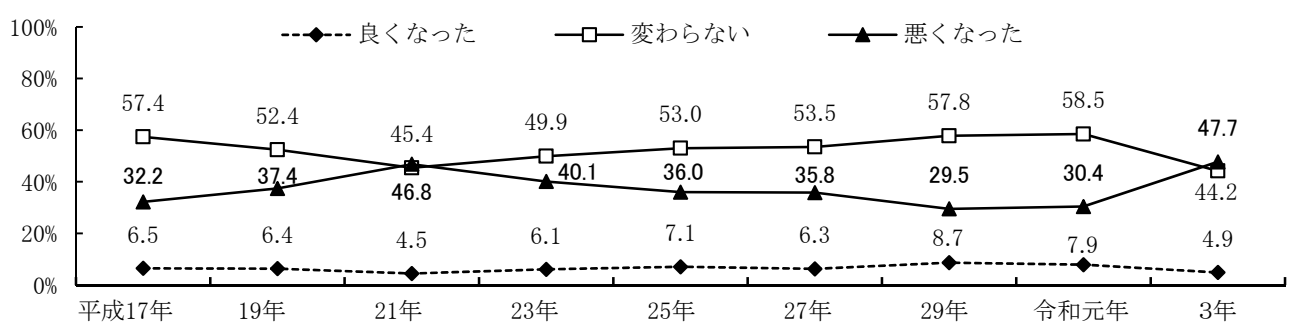
貯蓄



教育・教養



レジャー・余暇生活

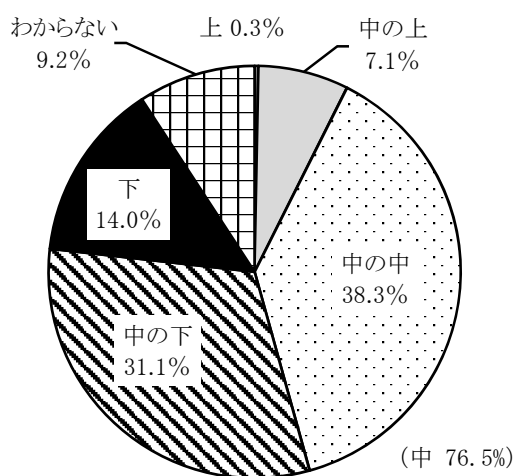


問3 暮らし向き程度

お宅の暮らしの程度は、世間一般からみて、次のどれに入るとお考えですか。次の中から一つ選んで番号を○で囲んでください。

	(%)
1 上	0.3
2 中の上	7.1
3 中の中	38.3
4 中の下	31.1
5 下	14.0
6 わからない	9.2

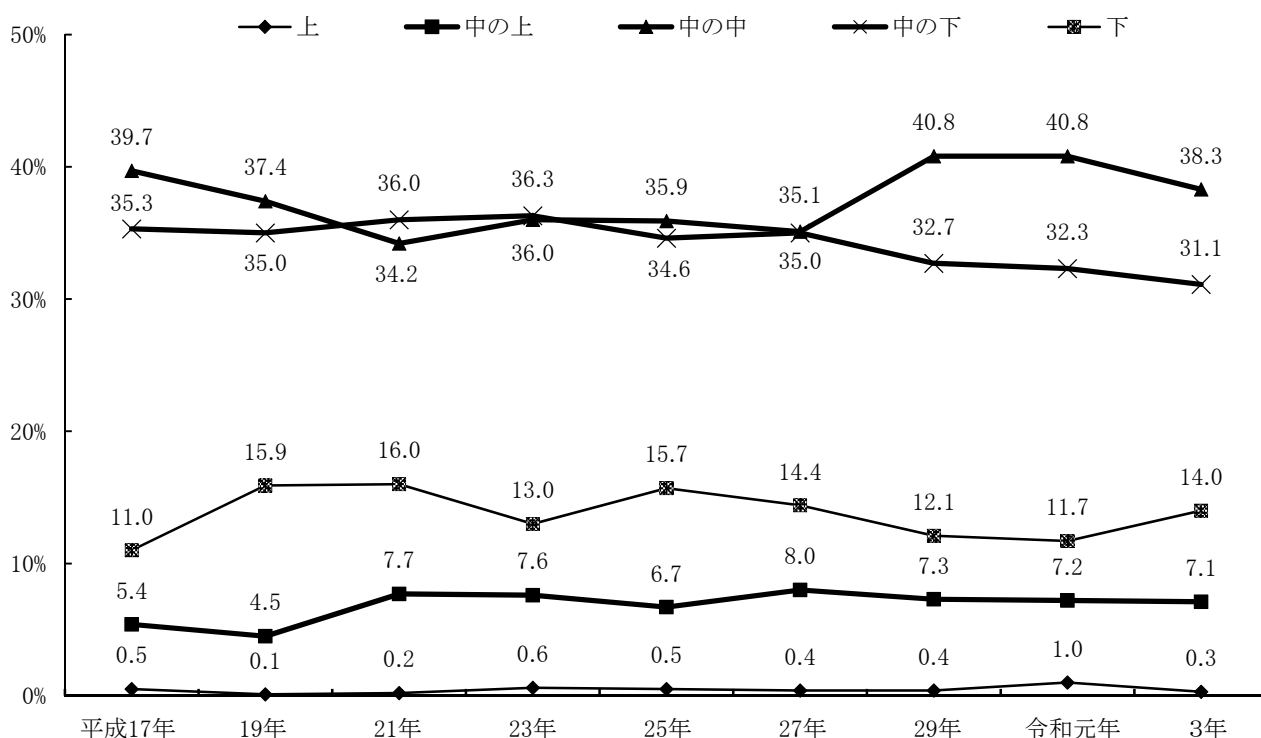
暮らし向き程度を世間一般からみてどの程度だと思っているかを聞いたところ、「中の中」と答えた人の割合が38.3%と最も多く、「中の上」(7.1%)及び「中の下」(31.1%)と合わせて76.5%の人が中流意識を示している。また、「上」と答えた人の割合は0.3%、「下」は14.0%となっている。



【経年変化】

経年変化をみると、暮らし向きに対する県民の中流意識は引き続き強く、いずれの調査年においても、7割以上の方が、自分の家庭の暮らし向き程度を中程度だと評価しているが、今回の調査では、「中」と答えた人の割合は、前回調査と比較して、3.8ポイント減少している。

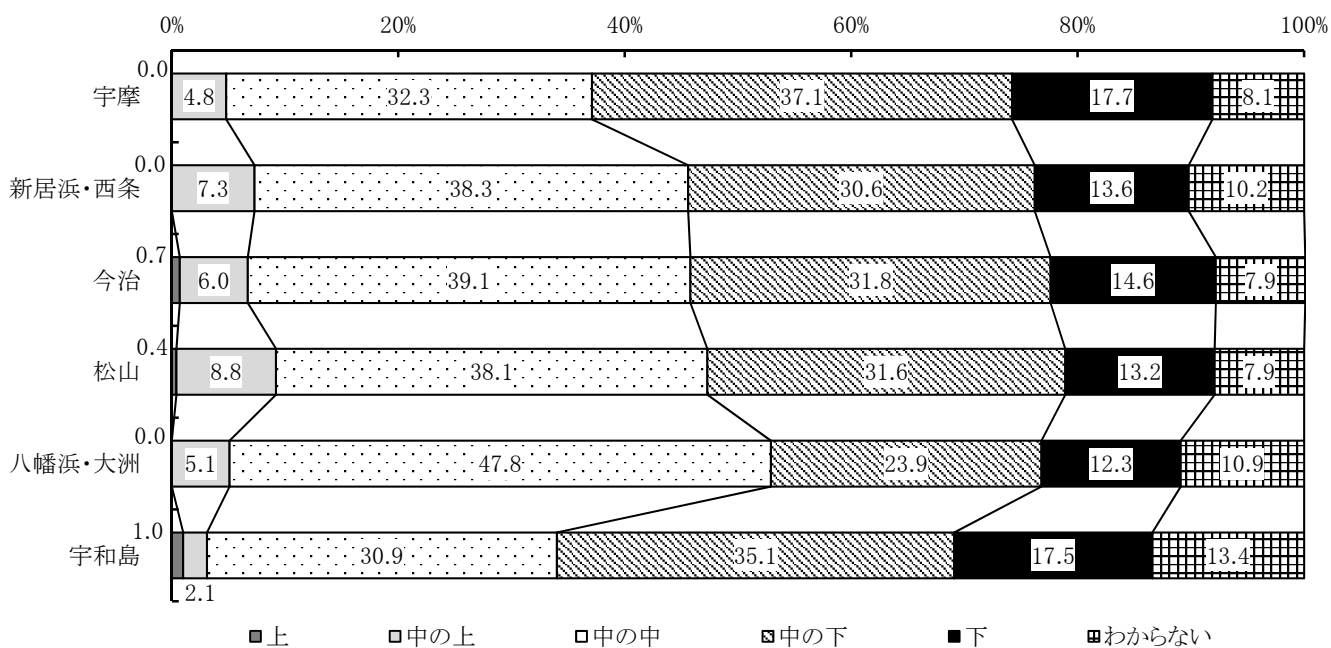
また、「上」と答えた人の割合は0.7ポイント減少し、「下」は2.3ポイント増加している。



【生活圏域別】

生活圏域別にみると、宇摩圏域及び宇和島圏域を除く全ての圏域で「中の中」と答えた人の割合が最も多く、宇摩圏域及び宇和島圏域では「中の下」が最も多くなっている。

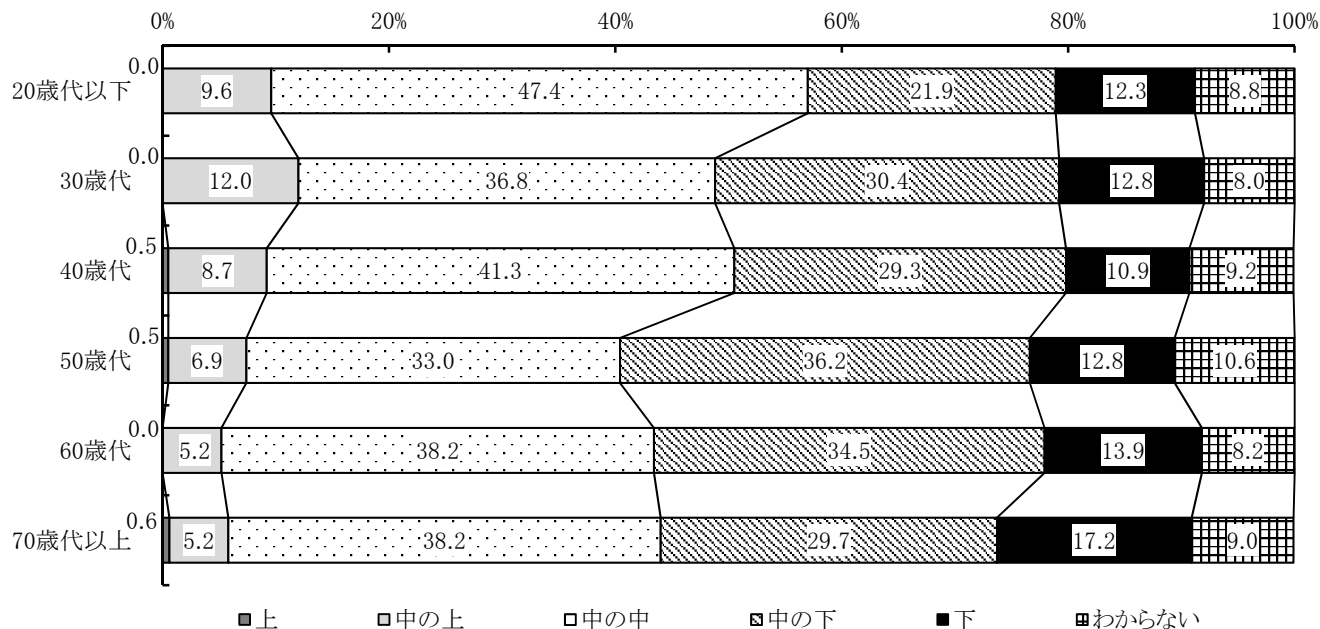
また、前回調査と比較すると、「中の中」と答えた人の割合が、八幡浜・大洲圏域で14.2ポイント増加し、「中の下」が9.7ポイント減少している。



【年齢別】

年齢別にみると、50歳代を除く全ての年齢層で、「中の中」と答えた人の割合が最も多く、50歳代では「中の下」が最も多くなっている。

また、前回調査と比較すると、20歳代以下では「下」と答えた人の割合が6.6ポイント増加し、30歳代では、「中の中」が11.8ポイント減少している。



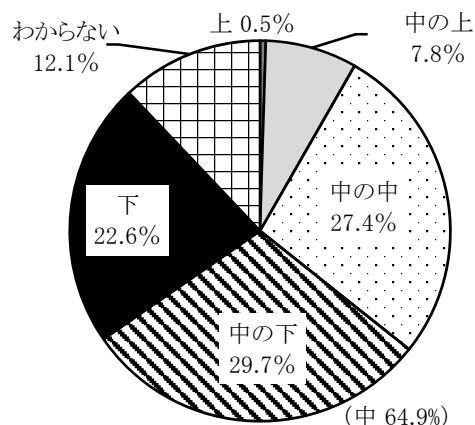
問4 資産の程度

お宅の資産（土地、家屋、預貯金等）は、世間一般からみて、次のどれに入りますか。次の中から一つ選んで番号を○で囲んでください。

	(%)
1 上	0.5
2 中の上	7.8
3 中の中	27.4
4 中の下	29.7
5 下	22.6
6 わからない	12.1

資産（土地、家屋、預貯金等）を世間一般からみてどの程度だと思っているかを聞いたところ、「中の下」と答えた人の割合が29.7%と最も多く、「中の上」（7.8%）及び「中の中」（27.4%）と合わせて64.9%の人が中流意識を示している。問3の暮らし向き（中：76.5%、下：14.0%）と比較すると中流意識は低く、下流意識が高くなっている。

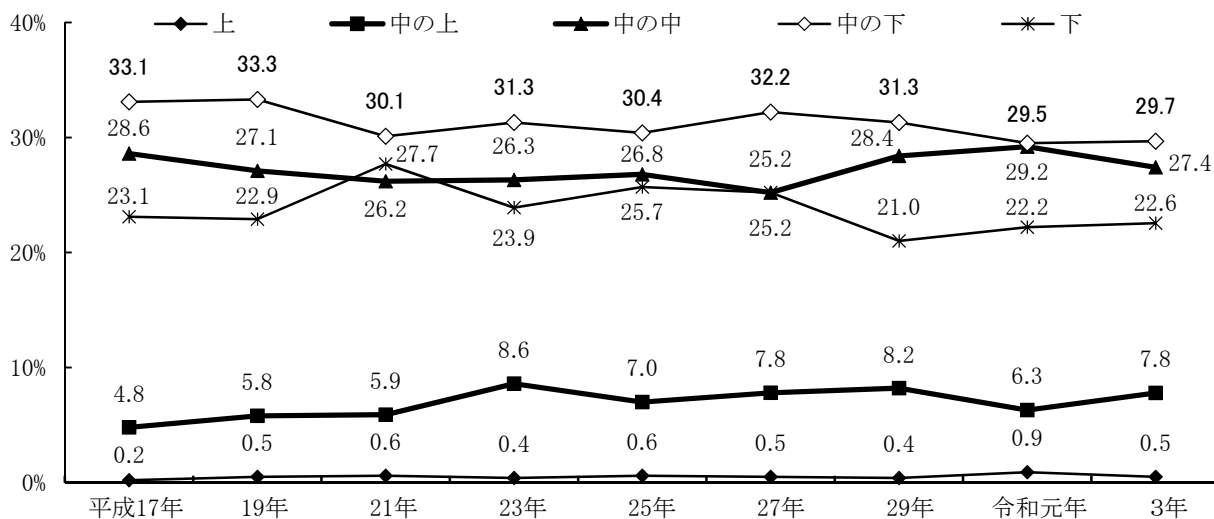
また、「上」と答えた人の割合は0.5%、「下」は22.6%となっている。



【経年変化】

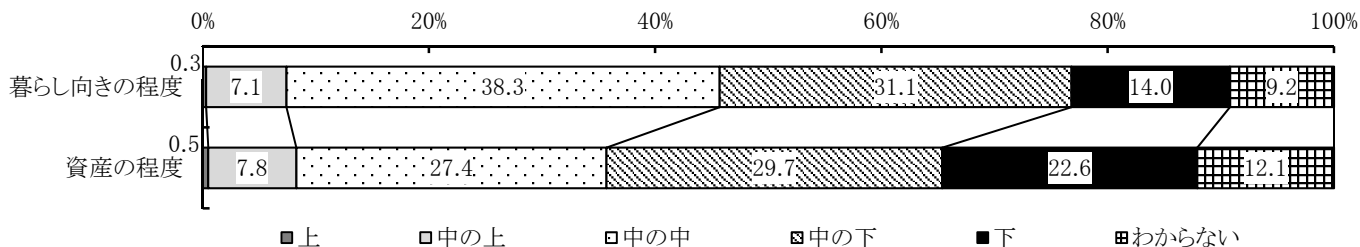
経年変化をみると、資産に対する県民の中流意識は引き続き強く、前回調査と比較して、「中」と答えた人の割合は、0.1ポイント減少している。

また、「上」と答えた人の割合は、0.4ポイント減少し、「下」は、0.4ポイント増加している。



【暮らし向きの程度と資産の程度】

問3の暮らし向きの程度と問4の資産の程度の意識を比較してみると、暮らし向きの程度の方は「中の中」、資産の程度の方は「中の下」と答えた人の割合が最も多くなっている。



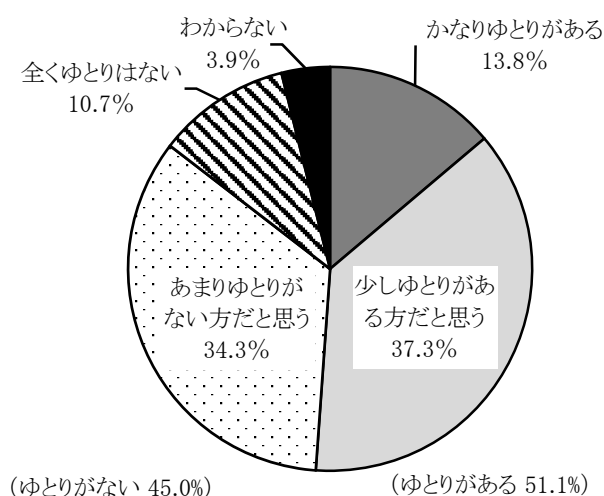
問5 生活のゆとり感

あなたは、普段の生活で時間的なゆとりがある方だと思いますか。それともない方だと思いますか。次の中から一つ選んで番号を○で囲んでください。

	(%)
1 かなりゆとりがある	13.8
2 少しゆとりがある方だと思う	37.3
3 あまりゆとりがない方だと思う	34.3
4 全くゆとりはない	10.7
5 わからない	3.9

普段の生活における時間的なゆとりの有無について聞いたところ、「ゆとりがある」と答えた人の割合は、51.1%（「かなりゆとりがある」（13.8%）、「少しゆとりがある方だと思う」（37.3%））であった。

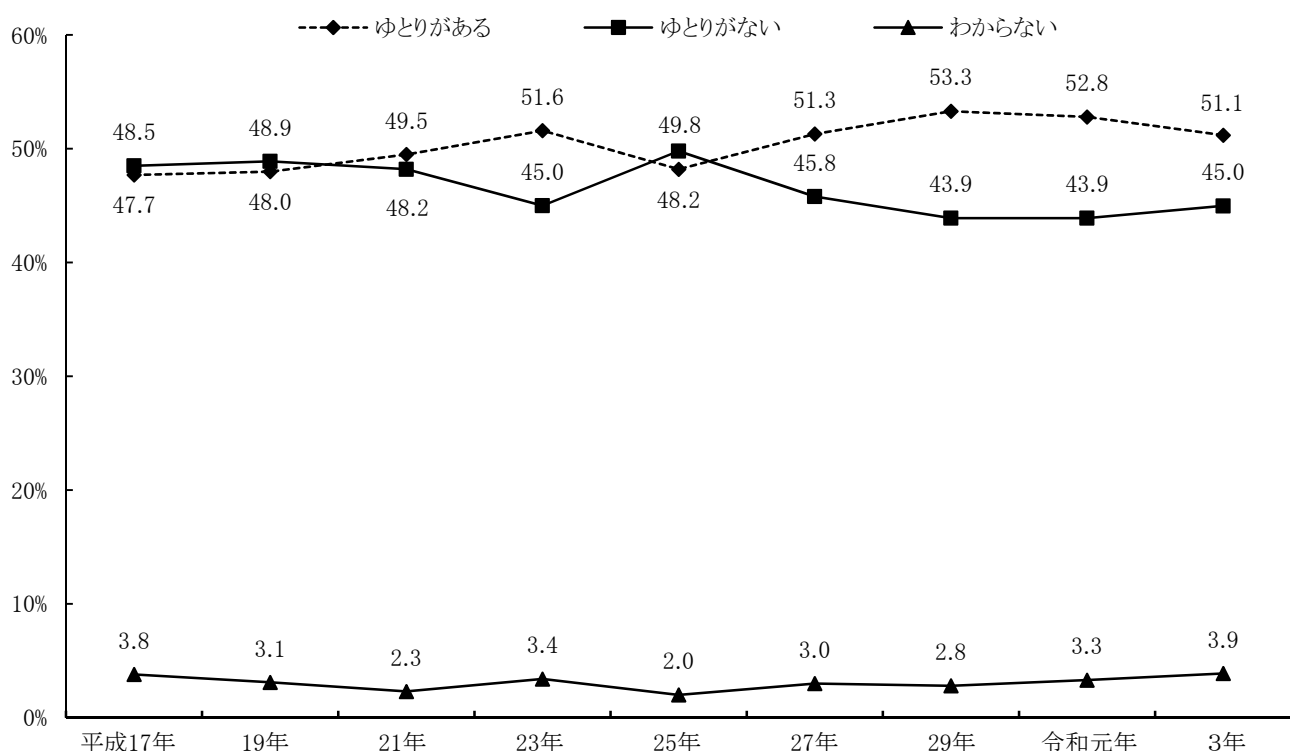
また、「ゆとりがない」は、45.0%（「あまりゆとりがない方だと思う」（34.3%）、「全くゆとりはない」（10.7%））であり、時間的なゆとりがあると感じている人の方が、6.1ポイント多くなっている。



【経年変化】

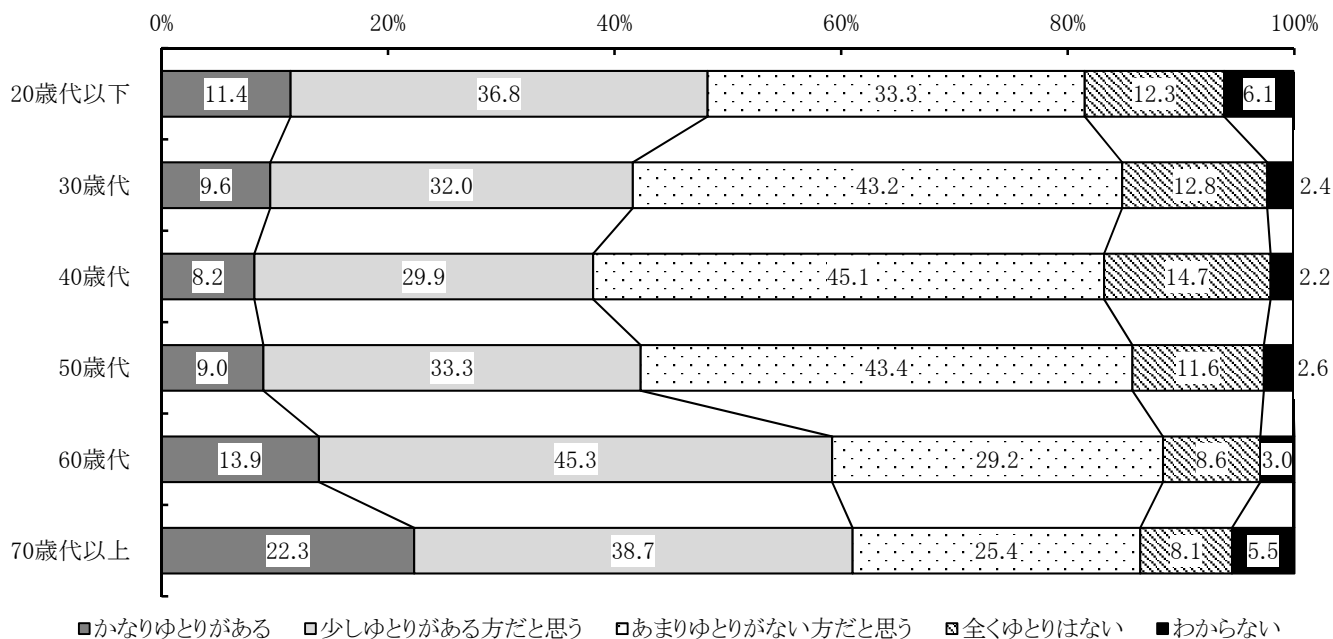
前回調査と比較すると、「ゆとりがある」と答えた人の割合は、1.7ポイント減少し、「ゆとりがない」と答えた人の割合は、1.1ポイント増加している。

また、「ゆとりがある」と答えた人の割合は、平成29年調査以降減少傾向にある。



【年齢別】

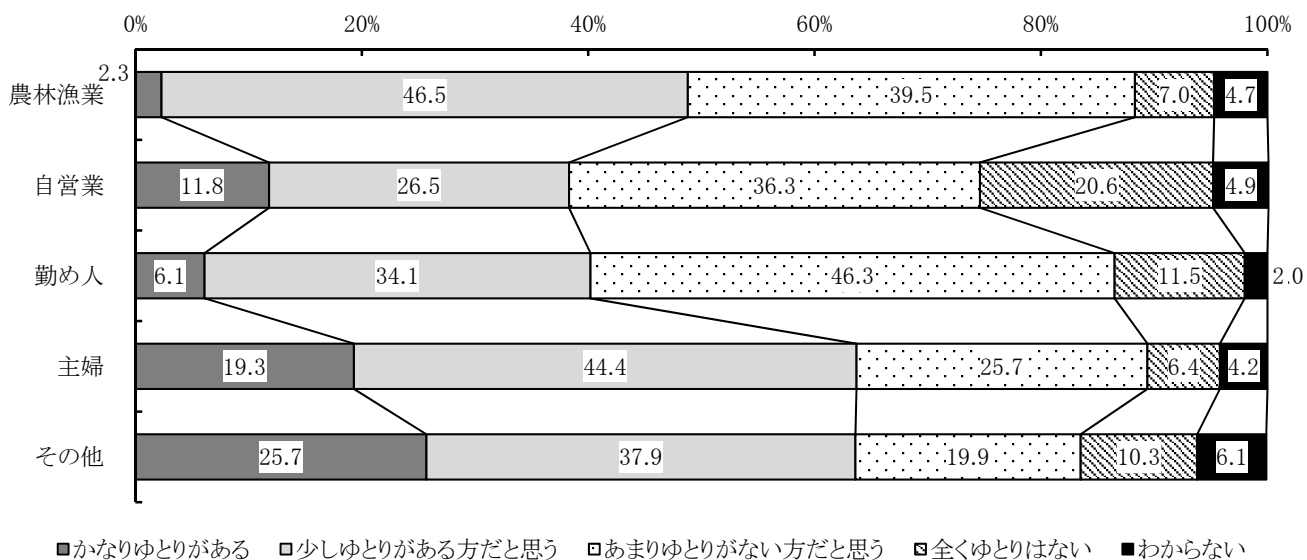
年齢別にみると、60歳代以上及び20歳代以下では、「ゆとりがある」と答えた人の割合の方が多く、30歳代から50歳代までは「ゆとりがない」と答えた人の割合が多くなっている。



【職業別】

職業別にみると、農林漁業、主婦及びその他では、「ゆとりがある」と答えた人の割合が多く、特に主婦及びその他では6割以上となっており、「ゆとりがない」を大きく上回っている。

また、勤め人及び自営業では、「ゆとりがない」の方が多く、勤め人では、57.8%と特に多くなっている。

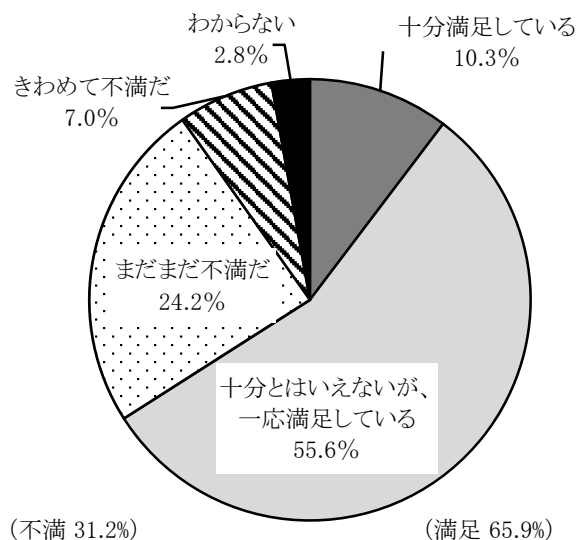


問6 暮らしに対する満足度

あなたは、現在のお宅の暮らしに満足していますか。それとも不満ですか。次の中から一つ選んで番号を○で囲んでください。

	(%)
1 十分満足している	10.3
2 十分とはいえないが、一応満足している	55.6
3 まだまだ不満だ	24.2
4 きわめて不満だ	7.0
5 わからない	2.8

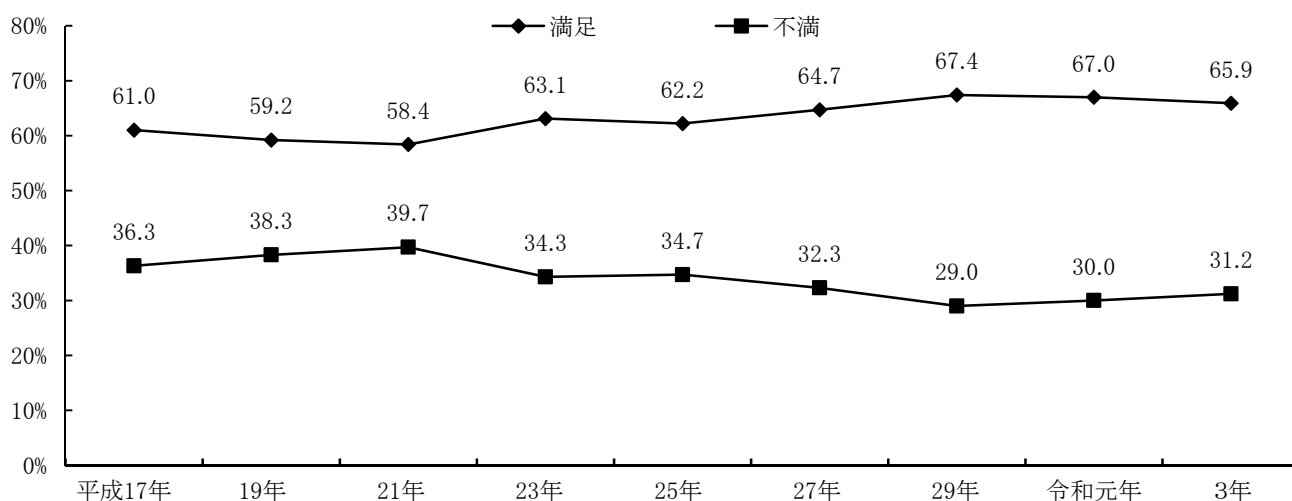
現在の暮らしに満足しているか、それとも不満かを聞いたところ、「満足」と答えた人の割合は、65.9%（「十分満足している」(10.3%)、「十分とはいえないが、一応満足している」(55.6%)）であったのに対し、「不満」は、31.2%（「まだまだ不満だ」(24.2%)、「きわめて不満だ」(7.0%)）で、現在の暮らしに満足していると感じている人の方が、34.7ポイント多くなっている。



【経年変化】

前回調査と比較すると、「満足」と答えた人の割合は、1.1ポイント減少し、「不満」と答えた人の割合は、1.2ポイント増加している。

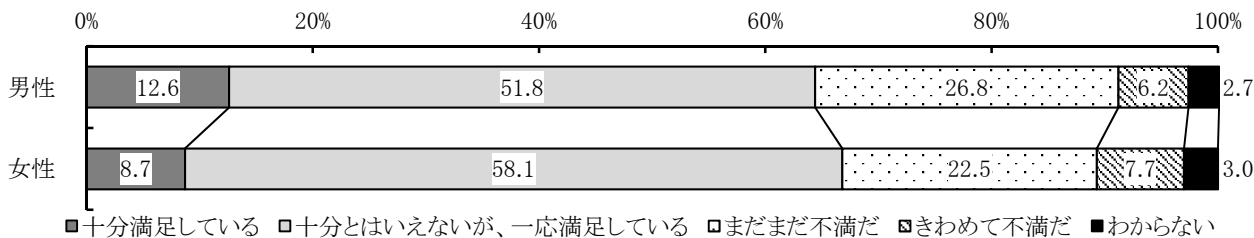
また、「満足」と答えた人の割合は、平成29年調査以降減少傾向にある。



【性別】

性別にみると、「満足」と答えた人の割合は、男性 64.4%、女性 66.8%と男女共に 6 割を超えており、女性の方が 2.4 ポイント多くなっている。（前回調査は、女性の方が 6.1 ポイント多い。）

一方、「不満」と答えた人の割合は、男性 33.0%、女性 30.2%と男性の方が 2.8 ポイント多くなっている。（前回調査は、男性の方が 6.2 ポイント多い。）

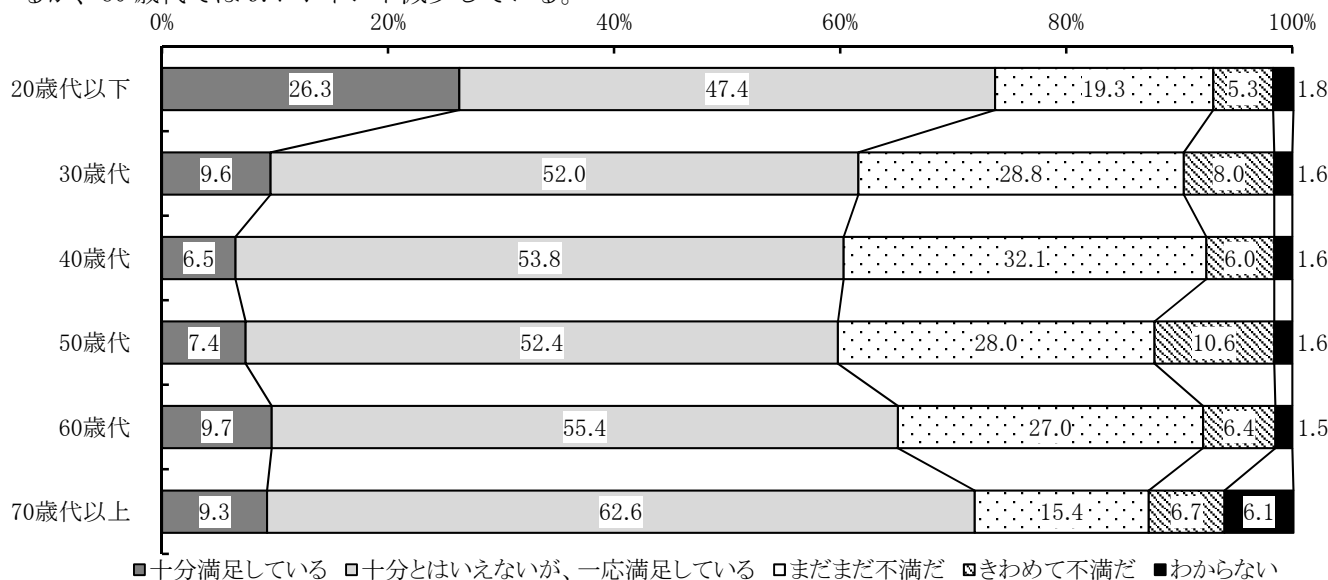


【年齢別】

年齢別にみると、全ての年齢層で、「満足」と答えた人の割合は、「不満」を上回っており、70 歳代以上（「満足」：71.9%、「不満」：22.1%）で最も大きく上回っている。

一方、「不満」と答えた人の割合は、50歳代（38.6%）で最も多く、以下40歳代（38.1%）、30歳代（36.8%）の順となっている。

また、前回調査と比較すると、「満足」と答えた人の割合は、70 歳代以上では、4.2 ポイント増加しているが、60 歳代では 9.7 ポイント減少している。

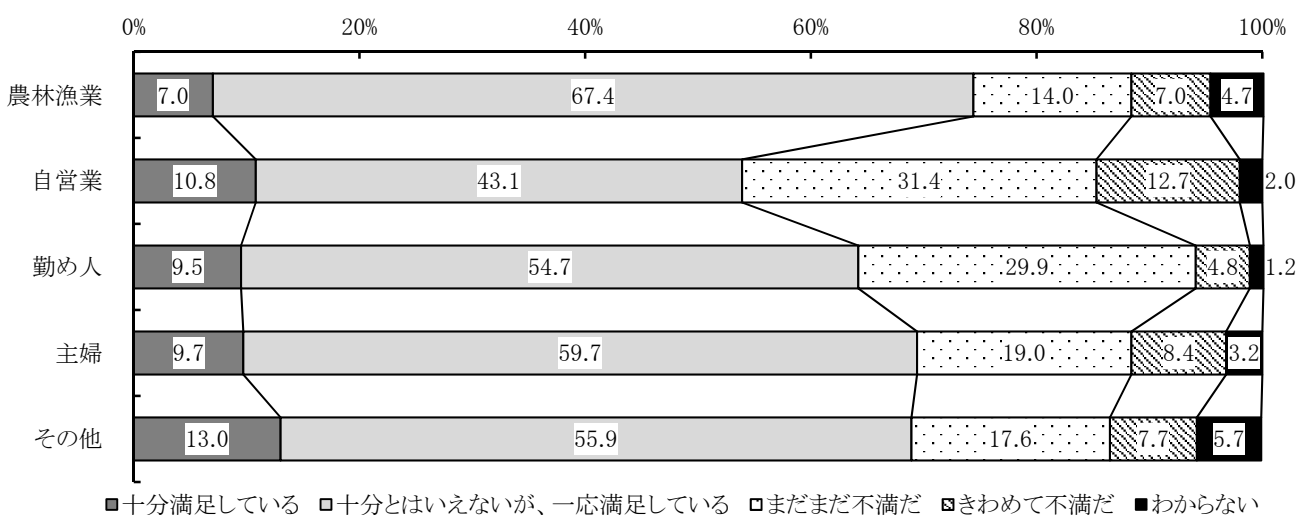


【職業別】

職業別にみると、全ての職種で、「満足」と答えた人の割合が「不満」を上回っており、農林漁業（「満足」：74.4%、「不満」：21.0%）で最も大きく上回っている。

一方、「不満」と答えた人の割合は、自営業（44.1%）で最も多く、以下勤め人（34.7%）の順となっている。

また、前回調査と比較すると、自営業で、「満足」と答えた人の割合が 6.7 ポイント減少している。

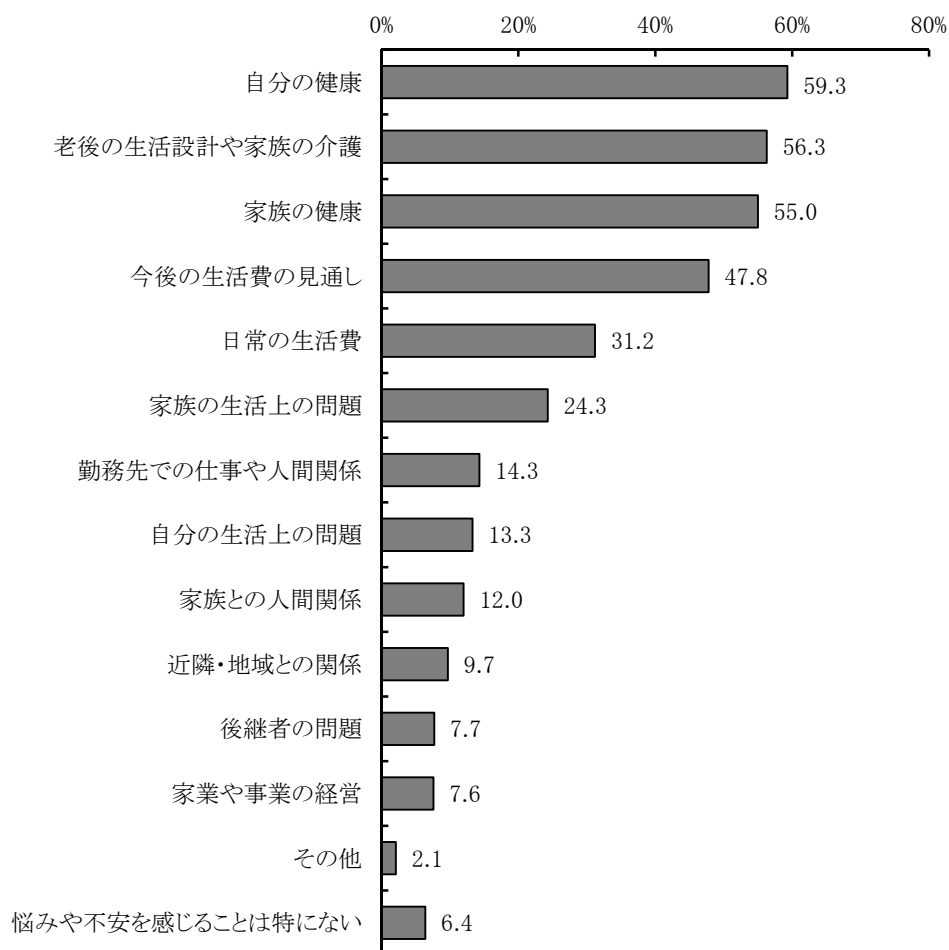


問7 日常生活での悩みや不安

あなたが、日常生活の中で悩みや不安を感じていることがあれば、次の中から当てはまるものを全て選んで番号を○で囲んでください。

	(複数回答)	(%)
1	自分の健康について	59.3
2	家族の健康について	55.0
3	自分の生活（進学、就職、結婚など）上の問題について	13.3
4	家族の生活（進学、就職、結婚など）上の問題について	24.3
5	日常の生活費について	31.2
6	今後の生活費の見通しについて	47.8
7	後継者の問題（家業、農林漁業の将来）について	7.7
8	家業や事業の経営（農林漁業を含む）について	7.6
9	家族との人間関係について	12.0
10	近隣・地域との関係について	9.7
11	勤務先での仕事や人間関係について	14.3
12	老後の生活設計や家族の介護について	56.3
13	その他	2.1
14	悩みや不安を感じることは特にない	6.4

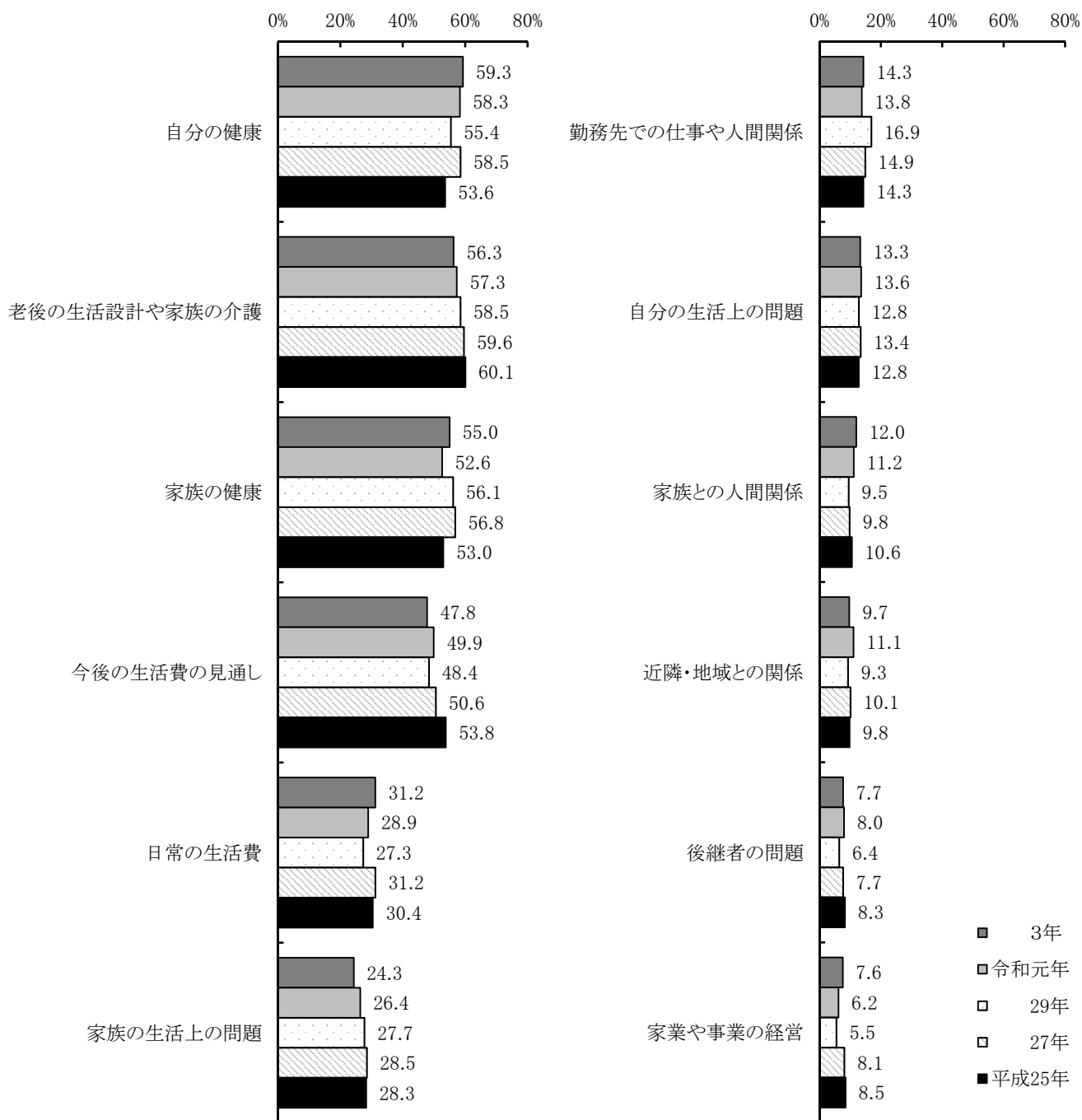
日常生活の中で悩みや不安を感じていることがらを聞いたところ、「自分の健康について」と答えた人の割合が59.3%と最も多く、以下「老後の生活設計や家族の介護について」（56.3%）、「家族の健康について」（55.0%）、「今後の生活費の見通しについて」（47.8%）の順であり、将来の生活や健康に関する悩みや不安を感じている人が多くなっている。



【経年変化】

経年変化をみると、悩みや不安の上位の項目は、平成25年調査以降大きな変化は見られず、自分の健康や老後の生活設計、家族の介護に関する悩みや不安を感じている人が多い。

また、前回調査と比較すると、「家族の健康について」は、2.4ポイント増加し、「今後の生活費の見通しについて」及び「家族の生活上の問題」は、2.1ポイント減少している。



【年齢別】

年齢別にみると、20歳代以下では、「自分の生活上の問題」と答えた人の割合が、他の年齢層と比較して特に多くなっている。30歳代では、「今後の生活費の見通し」、40歳代及び50歳代では、「老後の生活設計や家族の介護」、60歳代では、「自分の健康」及び「老後の生活設計や家族の介護」、70歳代以上では、「自分の健康」と答えた人の割合が最も多くなっている。

また、「老後の生活設計や家族の介護」と答えた人の割合は、40歳代以上で、「家族の健康」は、30歳代及び50歳代以上で5割を超えている。「自分の健康」と答えた人の割合は、年齢層が高くなるほど多くなっている。

